

## 支援事例

商工会名	芦北町 商工会	氏名	藤川晃司	情報開示の可否	可
支援テーマ	販路拡大・販路支援	題名	町内の観光関連等事業者の新しいターゲット層開拓に向けた情報取集事業		
	地域資源活用・新連携				

### <支援企業の概要>

事業所名	—	従業員	—	人	創業/ 会社設立	創業日	—
業種	小売・飲食・サービス	うち家族従業員	—	人		業歴	—

### ○企業概要

2016年（H28）の熊本地震による施設・設備への被害。そこから復興に向けて動き始めた矢先の2020年（R2）、7月豪雨災害に見舞われ、地震の時以上の被害をうけた芦北町の商工業者。さらに輪をかけて広がった新型コロナウイルス感染症の蔓延により、経営の再建をあきらめる事業者もいる状況であった。

そのような状況にも負けず、地道に経営再建に取り組む事業者は多い。

### ○支援のきっかけ（相談内容）・支援前の課題

#### （支援のきっかけ）

- ・ 県内菊陽町に世界的な半導体メーカーTSMCの工場が進出し、数多くの台湾人駐在員が熊本に来ることになった。
- ・ それらの方は、現時点ではまず、阿蘇や天草といった県内の有名観光地を先に訪れている。それらが落ち着くと次は別の地域へ訪れることが想定される。
- ・ 台湾人にとって、現状において芦北町の知名度は低いと考えられるので、芦北町を選び、遊びに来てもらうための工夫が必要である。

#### （支援課題）

- ・ 県内在住の台湾人をターゲットに想定するにしても、その層のニーズ等を把握していない。
- ・ 台湾人をターゲットにするために、台湾の文化や慣習、ニーズ等を把握し、分析する必要がある。

### ○支援内容および支援後の状況・効果

商工会として、町内の観光関連事業者（商業・飲食宿泊・観光関連サービス）の個社支援に繋げるべく、熊本県在住の台湾人を対象としたアンケート調査を実施した。

- ・ 調査の対象者は、最近3年以内に日本に来日した台湾人。（468人中、226人から回答を得た。）
- ・ 調査結果は、集計・分析のうえ、各事業者の今後の経営戦略及び事業計画策定に活用してもらうべく報告会を開催した。また、報告会に参加出来なかった事業者には、集計内容の説明を個別に行った。
- ・ この結果を活かし、予約のシステムの見直しや、ターゲットに向けた新しい商品構成の検討が始まっている。
- ・ 芦北町には、数多くの観光資源があるものの、その周知の方法や活用のやり方に足りない部分がある事が分かった。

### ○今後について（目標や課題など）

この調査により、ターゲットと想定している台湾人の文化や慣習・ニーズ等をある程度把握することが出来た。

今後は、個社の事業計画策定支援から、事業計画の進捗フォロー支援を実施し、小規模事業者の販路開拓並びに売上・利益確保につなげていく。

この内容は小規模事業者だけではなく、町や県地域振興局等の地方自治体と情報を共有し、小規模事業者が行う経営戦略の実践と、公共的なインフラ（案内看板や観光PR活動・HPの充実）整備等を同時進行で進めることで、集客効果を高めてゆくことを確認出来た。